

(仮称) 城山公園フラワーパーク整備事業
基本計画
概要版

平成31年3月
小山市





1. 基本計画策定の目的

- 城山公園は、公園利用ニーズの多様化や都市公園制度の状況が変化の中で、隣接する小山御殿広場と一体となったシンボル性の高いオープンスペースとして人が憩い集う新たな拠点となり、周辺資源との連携により回遊性を高め、交流人口の増加を図ることが期待されています。
- 一方、城山公園は人が憩い集う新たな拠点だけでなく、まちの歴史資源の保全、思川河岸段丘林の生態回廊として機能の保全など、次世代にまちの貴重な資源を継承していく役割も有しています。
- このため基本計画策定においては、城山公園に期待される役割を整理し、目指すべき姿とそれを実現するための整備計画、持続的な管理運営体制のあり方を示すことを目的とするものです。

2. 現状把握

【法規制の状況】

- 国史跡（祇園城跡）
- 都市公園
- 指定緊急避難場所

【計画対象地の詳細】

- 桜の名所として親しまれている一方で、祇園城跡としての史跡の魅力が伝えられていません。また、都市公園として開園してから約60年、施設等の老朽化も伴い、利用者も減少しています。
- 史跡を保存・活用するとともに、賑わいづくりに寄与する新たな施設づくりが求められています。

■ 地形

- 土塁と堀に囲まれた曲輪による構成、敷地面積4.2ha、平場面積約1.7ha（駐車場除く）
- 約400m×約150mの奥行きある地形

■ 植生

- 針葉樹を中心に大木化した樹木が多い過密な樹林環境、やや薄暗く見通しが悪い
- サクラは間伐や強剪定した老木が多く、花芽が少ない、オモイガワザラを適宜補植栽

■ 史跡

- 史跡の骨格である土塁や堀から構成する曲輪地形が現存
- 一方で、土塁や堀など樹木が多く視認性が低い

■ 景観

- まとまりのある緑景観を形成
- 思川のビューポイントの位置づけられている、一方で、斜面林により思川への眺望が遮られている

■ 施設

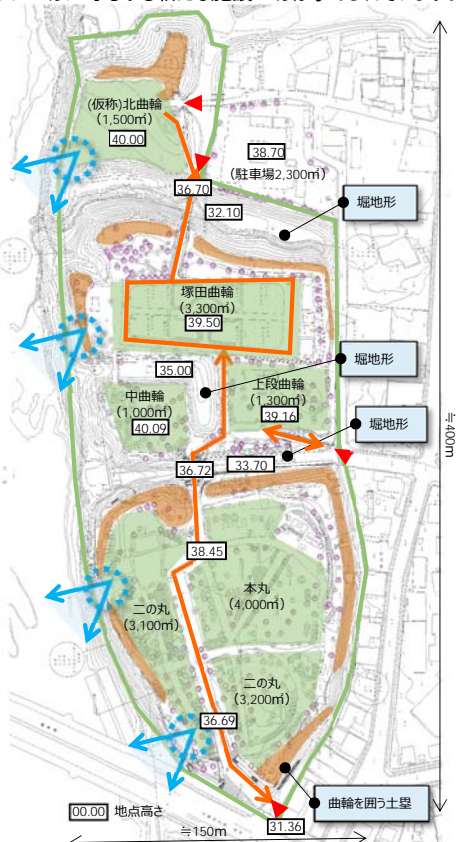
- 転落防止柵の破損、遊具の損傷など老朽化が著しい
- 階段や園路などのバリアフリーへの対応が必要
- 西側法面の崩落が著しい

■ アクセス、動線

- 県道栃木・小山線からのメインアクセスと東側と北側からのサブアクセス
- 駐車場は北側の公園敷地外の用地を暫定利用

■ 利用状況

- 桜の花見の季節は多くの来客があるが、それ以外の季節は来園者が少ない



【周辺の地形や土地利用との関係整理】

- 城山公園は、まちの玄関口である小山駅に近く、駅と公園の間には様々な歴史観光資源が点在しています。
- このような立地特性を踏まえ、「駅周辺のまちづくりとの連携」「思川との連携」「小山氏関連歴史資源との連携」による魅力アップなどを図り、まちの活性化に寄与することが期待されます。

■ 周辺資源の活用展開例

思川沿いへの展開

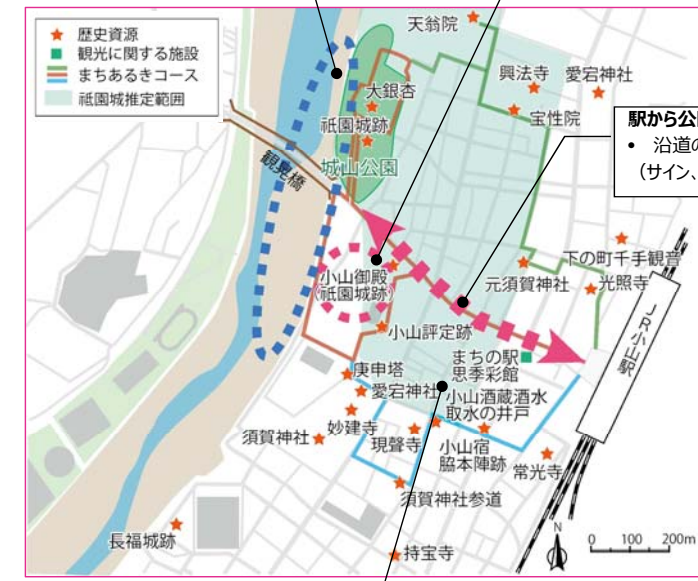
- 公園から河川敷へアクセス
- 堤沿いのサクラ祭りとの連携
- およま思川アユ祭りとの連携
- 観覧橋上流の思川緑地との連携

小山御殿広場と連携したPR手法

- イベント等での一体利用（花コンテストなど同時開催）
- 小山評定の知名度と絡めたPR

駅から公園への誘導強化

- 沿道の修景性の向上（サイン、フラッグ、照明等の演出）



城山公園からまちなか観光へ

- 城跡と関連ある寺社、まちの駅等を活用し、城跡を拠点としたストーリー性のあるまち歩き

3. 課題

■ 公園緑地

にぎわいを高めるための緑地空間の再デザインが求められている

駅近く、小山御殿広場や河川敷にも隣接した立地であることから、新たな魅力を付加してまちにぎわいや回遊を創出するための再デザインが求められています。

■ 文化財

史跡祇園城跡の遺構の保存と活用が求められている

隣接する小山御殿広場や市内に残された小山氏関連史跡とともに、中世～江戸にかけて築かれた祇園城の遺構を体感し、歴史を学ぶ場としていく必要があります。

■ まちづくりとの関わり

まちの活性化へと結びつく観光・集客の拠点としての役割が求められている

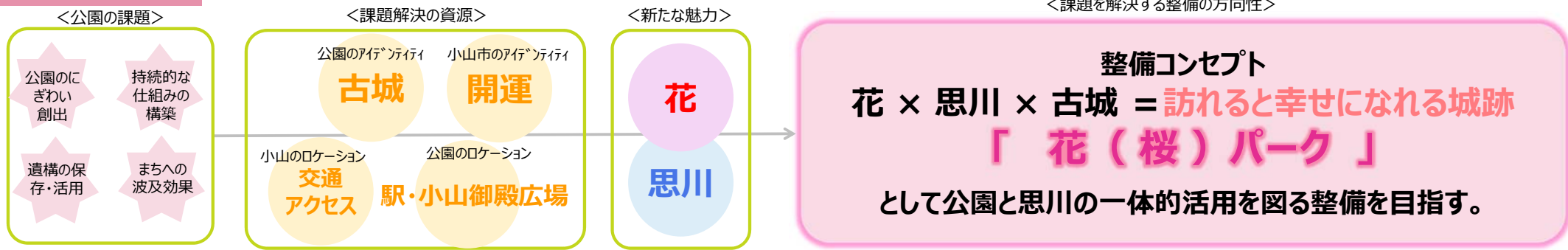
多くの人が集う施設やプログラムの提供、周辺の観光施設との連携した取り組み等により、小山の観光・集客の拠点としていくことが期待されています。

■ 管理運営

新たな管理運営の仕組みによる持続的な魅力の向上が求められている

公園の魅力を引き出すために市民との協働、民間事業者のノウハウ活用など民との効果的な連携を進め、特性を活かした管理運営の仕組みを構築していく必要があります。

4.整備の方向性



人を呼び込む 誘引策

- 城山公園の再整備では、にぎわい創出等の課題に対し、公園やまちのアイデンティティである「古城」「開運」、「交通アクセス」の至便性や「駅」「小山御殿広場」に隣接したロケーションを活かし、新たな魅力要素として「花」と「思川」を付加し、再デザインを展開します。
- 「古城」と「花」の展開としては、“四季折々花に包まれた城跡”という、普通の都市公園では真似することができない非日常的な空間創出を目指します。
- 「開運」と「花」の展開としては、“訪れると幸せな体験が出来る”という観点から、特別な体験を求める利用者に花の魅力を訴求します。
- また拠点だけで完結するのではなく、周辺の地域資源とも連携し、取組みの独自性と多様性を高めます。
- さらに、推進体制としては市民の参加協力を得ながら、民間事業者のノウハウも活用して事業を進めます。

コンセプトを実現する整備方針

整備方針1 にぎわいを生む

これまで市民に愛されてきた桜や史跡としての価値をきちんと伝えながら、花が咲き誇るガーデンと、立ち寄り拠点となるおもてなし施設の整備、思川沿いの親水空間の活用により花の名所づくりを進めます。

整備方針2 歴史を伝える

遺構を確実に保存し、遺構の見学や体感から理解、学習まで一貫して出来るようにし、更に、小山の古城と史跡のネットワーク、祇園城周辺の歴史まち歩きを展開します。

整備方針3 まちと連携する

JR東京駅から新幹線でわずか41分の小山駅、小山御殿広場、思川等との近接性を生かし、城山公園でしっかり観光客を受け止める整備を行いつつ、水辺の魅力向上として思川と一体的な親水空間づくりや歴史観光、まちなかの体験等の魅力付加で、まち歩きが楽しい環境づくりを進めます。

整備方針4 民の力を生かす

従来の現状維持型の公園管理運営ではなく、市民との協働によるプログラム実施や集客に向けた民間事業者のノウハウ活用などにより、持続的な魅力向上を図ることができる運営体制づくりを進めます。

来園者を幸せにする6つのコンテンツ



基本計画図

1) 環境の保全と創出

■ 樹林環境の適正化と桜の更新

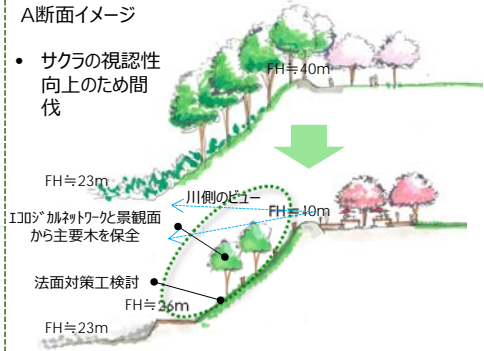
- 針葉樹主体に間伐し、林床部に日照が届く明るい林内環境を創出する。
- 現状の桜は保全し、老古木はオモイガワ桜へ更新を図る。
- 桜1本1本の成長を促す環境をつくり、花のボリュームアップを目指す。

■ 法面の保全

- 公園の利用者が安全・安心に利用できるような法面の改修を行う。
- 見通しと日照確保のため間伐と強剪定を行う。
- 東側住宅沿いは一部斜面林を間伐及び強剪定により転倒抑制を図る。

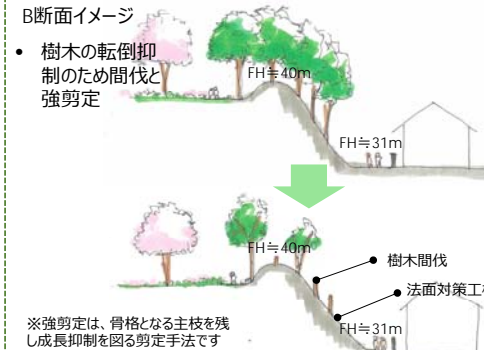
A断面イメージ

- 桜の視認性向上のため間伐



B断面イメージ

- 樹木の転倒抑制のため間伐と強剪定



樹林環境の将来イメージ (5年～10年後)

2) 花の配置

▶ 本丸を飾る風格ある大輪を咲かせる花と二の丸に広がる桜と面的な花による趣ある景観づくり



■ 花暦

	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
スイセン	曲輪	開花							肥料			
桜	曲輪	開花	肥料									剪定
ポタン	曲輪	開花	肥料					肥料・剪定				
シャクヤク	曲輪	肥料	開花									
アジサイ	法面	肥料			開花	剪定						
ヒガンバナ	曲輪							開花				肥料

花の配置イメージ図

3) 空間、休憩等施設づくり

- 公園の賑わい創出に向けて、曲輪の花の演出と一体的に休憩やサービス施設やイベント空間等を設ける。
- 物販、体験、学習、遊びの場など多様な利用者層のニーズに対応したおもてなし施設を目指す。
- 園内の川側にテラスを設け、川を眺望できる休憩スペースとして活用する。
- 堀からの川へのアクセスとして階段テラスでつなぎ、下流側と連続する高水敷小段により南北動線を確保する。
- 公園の隣接地に駐車場を確保する。



オープンテラス整備イメージ (塚田曲輪)



階段デッキと河川敷 (北西側から)



カフェイメージ

川テラス (南側から)



鳥瞰イメージパース

4) 史跡の保存と活用

■ 学習機能の向上

- 小山市の歴史シンボルとして、正しく学んでもらうために、見学ルートを設定し、各曲輪や城跡の見どころを解説する他、トイレを改修し、ボランティアガイドさんの受付機能を持たせ、学習効果を高める。

■ 体感できる整備

- 城跡を特徴づける土塁、堀、掘切の法尻に保護盛土をして春と秋に花で彩り、馬出、虎口などの雑草、雑木を整理し、体感できるように配慮する。

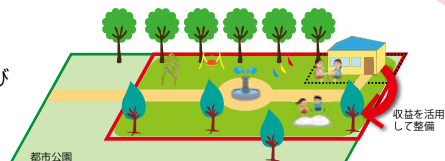
5) 運営の体制づくり

■ 民間活力の導入検討

- 民間活力の導入により、公園の魅力と集客力の向上、および市の財政負担の軽減を図るための手法及び方向性について具体的な調査、検討を行う。

■ 市民との連携強化

- 公園のポテンシャルをまちづくりの特性に応じて発揮するため、利用者やまちづくり関係者など様々なステークホルダーと連携しながら、活用の方向性、地域のニーズに応じた公園の利活用ルール等の検討を図る。



民間が収益施設と公共部分を一体的に整備するイメージ



5. 整備スケジュール

	I 期 (2019年度～2022年度)	II 期	III 期
整備方針 1 にぎわいを生む	基本・実施設計 樹木間伐・法面改修・基盤整備	法面改修等・基盤整備	基盤整備
整備方針 2 歴史を伝える	本丸・二の丸整備 歴史の「学び」・「体験」プログラムの検討・準備	上段・中・塚田曲輪整備	(仮称)北曲輪整備 プログラムの推進・充実
整備方針 3 まちと連携する	歴史・花・川を活かした観光等プログラム・イベントの検討・準備	プログラム・イベントの推進・充実	
整備方針 4 民の力を活かす	可能性調査 (可能性調査の結果により手法判断)	施設整備	交流拠点施設整備検討